

2023 年度 循環器疾患診療実態調査 (JROAD) 形式チェックツール利用マニュアル

I. ソフトウェアの概要

1. 前提

- ① 医療機関が厚生労働省に提出した DPC データを元データとして扱います。
- ② 元データから本調査の調査対象患者に限定したデータを抽出します。
- ③ 抽出したデータに対して形式チェックを行い、提出用データを作成します。
- ④ 提出用データを作成する際、DPC データに含まれる「生年月日」を「年齢」に変換します。

2. 機能概要

① 対象様式

様式 1、様式 4、EF ファイル、D ファイル、様式 3、外来 EF ファイル、H ファイル

※D ファイル：DPC 対象病院のみご提出ください。

※H ファイル：ご用意できる場合にのみご提出ください。

※外来 EF ファイル：全月分ご用意できる場合のみご提出ください。

※K ファイルは提出不要です。

② 対象期間

「循環器疾患実態調査 提出用データ作成要領」をご参照ください。

③ 抽出対象症例の絞り込み

以下の条件で絞込データを作成します。形式チェックおよび提出用データ作成はこの絞込データを対象に行います。

➤ 対象データ抽出条件

- ・ 様式 1 の主傷病（ペイロードコード A006010）、入院契機傷病（A006020）、医療資源最傷病（A006030）のいずれかの傷病名コードが抽出対象の傷病に該当するデータ識別番号
- ・ 様式 1 の手術情報（A007010）の点数表コードが抽出対象の手術に該当するデータ識別番号
- ・ 抽出の際に入院日は参照しません。
対象の傷病・手術で 1 回以上入院がある患者のデータは、それ以外の傷病・手術での入院時や外来のデータについても全て対象として抽出されます。
- ・ 抽出対象となる主な傷病・手術は以下に示す、循環器疾患に関連したものです。

(ア)傷病（抜粋。また、実際には傷病名コードで抽出する）

C380	心臓の悪性腫瘍
D151	心臓の良性腫瘍
D86\$	サルコイドーシス
E85\$	アミロイドーシス
G45\$	一過性脳虚血発作および関連症候群
I00～I99	循環器系の疾患全般 ※I00 心臓併発の記載のないリウマチ熱を除く。 ※W コーディングに循環器系コードがつく傷病を、一部を除いて含む。
M303	川崎病
M314	高安病
N280	腎虚血および腎梗塞
O10\$	妊娠・分娩・産褥に合併する既存の高血圧症
O903	産褥性心筋症
P29\$	周産期に発生した心血管障害
P36\$	新生児の細菌性敗血症
Q20\$～Q26\$	循環器系の先天奇形
R57\$	ショック
R95\$	乳幼児突然死症候群
R960	即死
T82\$	心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症 ※T820、T821、T822、T826、T827、T828（透析シャント関連除く）を含む

(イ)手術

診療報酬点数表 第8款 心・脈管に収載された手術のうち下記のもの

I 心、心膜、肺動静脈、冠血管等 の手術すべて（K538～K605-5）

II 動脈 の手術すべて（K606～K616-6）

III 静脈のうち、K6171～K620-2

④ 形式等のチェック

➤ 形式チェック、相関チェック、集計結果チェックの3つのチェックを行います。

(ア)形式チェック

各様式の入力項目ごとに値が適正かどうかをチェックします。結果はソフト画面上および、院内確認用出力ファイルのエラー確認用データ内のエラーコード列として記載されます。（「ファイルの単体事前チェック」時のエラー内容は画面上の表示のみ）

※ 詳細は項目「出力データのフォーマット (イ) 提出用データ」を参照してください。

(イ) 関連チェック

他の様式との相互関係をチェックし、各様式間に症例・行単位で矛盾がないか、キー情報が重複していないかなど、主にデータの過不足・矛盾についてチェックを行います。結果は結果画面に表示されます。

※ 関連チェックを実施するには全ての様式のファイルをセットする必要があります。

※ (ア) 形式チェックをクリアしてから実施してください。

➤ 形式チェックのエラーが関連チェックのエラー原因になることがあります。

➤ ある様式のエラーが他の様式のエラー原因になることがあります。

※ 関連チェックのエラーは、エラーごとに先頭から最大 100 件まで結果画面上に表示されます。(形式チェックのエラーの種類は全件表示されます)

(ウ) 集計結果チェック

様式 1、様式 4、EF ファイル (入外)、D ファイル、H ファイルで行います。

集計結果を見て、異常値等が含まれていないかを目視でチェックする必要があります。集計結果は「院内確認用データ」の指定フォルダ内にログ 2~7 のテキストファイルとして様式ごとに出力されます。

※ 詳細は項目「⑥ 出力データのフォーマット (ウ) 院内確認用データ」を参照してください。

⑤ 生年月日の年齢変換

DPC データの「生年月日」は、以下の仕様により「年齢」に変換されるため、提出用データに含まれることはありません。

(ア) 様式 1 の生年月日を、入院日時点の年齢に変換します。

(イ) EF ファイル (外来) の生年月日を、外来受診日時点の年齢に変換します。

(ウ) 生年月日が日付として認識できない値の場合は、空欄に変換します。

⑥ 入力データ (元データ) のフォーマット

厚生労働省提出の DPC 調査のデータ形式に準じます。厚生労働省に提出した DPC 調査データの最終版を使用してください。

⑦ 出力データのフォーマット

以下のデータがそれぞれ指定した保存先に出力されます。

(ア) 症例絞込データ (**提出不要**)

症例絞込データは「様式_施設コード_年月_jroad.txt」の形式で出力されます。ファイル構成は症例が絞り込まれている以外は入力データと同一です。このデータに対して各種チェック、提出用データの作成が行われます。

例) 様式 1 の症例絞込データ FF1_012345678_1704_jroad.txt

(イ) 提出用データ（**要提出**）

提出用データは「JROAD_施設コード_年_提出用データ.dt20」の形式で出力されます。全ての入力ファイルにエラーがない場合に限り出力されます。提出時はファイル名を絶対に変更しないでください。オンライン提出システムおよび媒体での提出方法に関してはそれぞれの案内をご参照ください。

- ※ エラーがない場合とは以下の状態を全て満たすことを指します。
 - 形式チェックでエラー（ワーニングを除く）が 0 件であること。
 - 相関チェックで不整合（全月タブの項目「相関結果」：×の表記）がないこと。
- ※ ワーニング（警告）とは結果確認画面上で **Warning** と表示されている、またはエラーコードに **W** がついているエラーのことで、ワーニングのみの場合は相関結果が○となります。
- ※ エラーがある場合、提出用データは作成されません。
 - 厚生労働省に提出した最終データを基に形式チェックをかけた場合、エラーが発生する可能性は限りなく低いと思われませんが、エラーが発生した場合は全月タブの各月の結果参照ボタンからエラー内容を確認し、エラーが発生しなくなるまで元ファイルの修正を行ってください。
- ※ 提出用データの中身を閲覧・修正等することはできません。
 - エラーを解消する際は、元データを修正し、匿名化処理を施した後のデータを入力ファイルとして、再度提出用データを出力してください。

(ウ) 院内確認用データ（**提出不要**）

データ内容に異常値などがないかを院内で確認するための集計結果を様式ごと（ログ 2～7）にチェック後、指定フォルダへ出力します。

また、チェック時に形式チェックエラーがあった場合は同フォルダ内へ「エラー確認用データ」も出力します。

院内確認用データ一覧表

データ名称	ファイルの内容
ログ 2	様式 1 の項目別集計結果
ログ 3	様式 4 の項目別集計結果
ログ 4	EF ファイル点数集計結果（診療区分別点数）各月
ログ 5	D ファイル点数集計結果（診療区分別点数）各月
ログ 6	外来 EF ファイル点数集計結果（診療区分別点数）各月
ログ 7	H ファイル項目別集計結果
エラー確認用データ	各様式（様式 3 以外）で形式チェックエラーがあった場合に、元データの左端にエラーコード列を付加して様式ごとに出力

- ※ 本プログラムでの形式チェック処理は、厚生労働省の「DPC 導入の影響評価に係る調査」の形式チェックに合格している DPC データを設定することを前提としております。

※ エラーコードの意味が分からない場合は、エラーコードとエラーメッセージを明記の上、循環器疾患診療実態調査事務局へお問い合わせください。
(dpc-jroad@ml.nvvc.go.jp)

II. インストール

本項では、形式チェックソフトの新規インストール手順について説明しています。

1. インストール開始前の注意事項

① インストール先の PC が下記の動作環境を満たしているかご確認ください。

OS	Windows11 (64bit) Windows 10 (32bit、64bit)
データベース	SQL Server2014 Express SP3
CPU	SQL Server で要求されている性能を満たすもの (Pentium4 以上推奨)
メモリ	2 GB を超えるもの
システムドライブの空き容量	200MB 以上必須、1GB 以上推奨 ※2
セットアップ先のドライブの空き容量	200MB 以上必須、1GB 以上推奨 ※2
必要コンポーネント	.Net Framework3.5 .Net Framework4.0
Excel	2016、2019、2021 ※4 (各バージョン 32bit 版のみ可、ストアアプリ版は不可) ※1

※1 デスクトップアプリ版のインストールが必要です。

※2 ソフトのインストールに最低限必要な空き容量となります。EF ファイル等チェック対象ファイルの容量が大きい場合は、上記以上の空き容量が必要になることがあるのでご注意ください。

② 必ず PC の管理者権限を持つユーザーで作業を行ってください。

③ SQL Server2014 Express SP3 がインストールされていない場合はインストールが必要です。

- SQL Server 製品版のデータベースがインストールされている端末では動作しません (SQL Server 製品版でもクライアントのみの場合は動作します)。
- インストールする PC に SQL Server2014 Express SP3 を使用した別ソフトがすでにインストールされている場合
(ア)厚生労働省が実施する DPC 調査参加病院向け DPC データ提出支援ツールであれば、そのままインストールを進めて問題ありません。
(イ)上記以外のソフトの場合、本ソフトもしくは別ソフトの動作に影響を及ぼす可能性があるため、別の PC へのインストールをご検討ください。

④ セットアップ作業には十分な作業時間を確保した上で行ってください。セットアップに要する時間は PC のスペックや環境によって異なります。

⑤ セットアップ開始後は、全てのセットアップ処理が完了するまで PC の電源を切らないでください。またインストーラーを強制終了しないでください。

⑥ 他のシステムやアプリケーションは、セットアップ作業が完了するまで起動しないでください。他のシステムやアプリケーションが起動している場合は、全て終了させてからセットアップ作業を開始してください。

⑦ 正常にインストールできない場合は、他の PC へのインストールをお勧めいたします。

2. 形式チェックツールのインストール

① インストーラー（JROAD_2022DPCCheck_Setup.EXE）をインストールする PC のローカルディスクに移動してください。

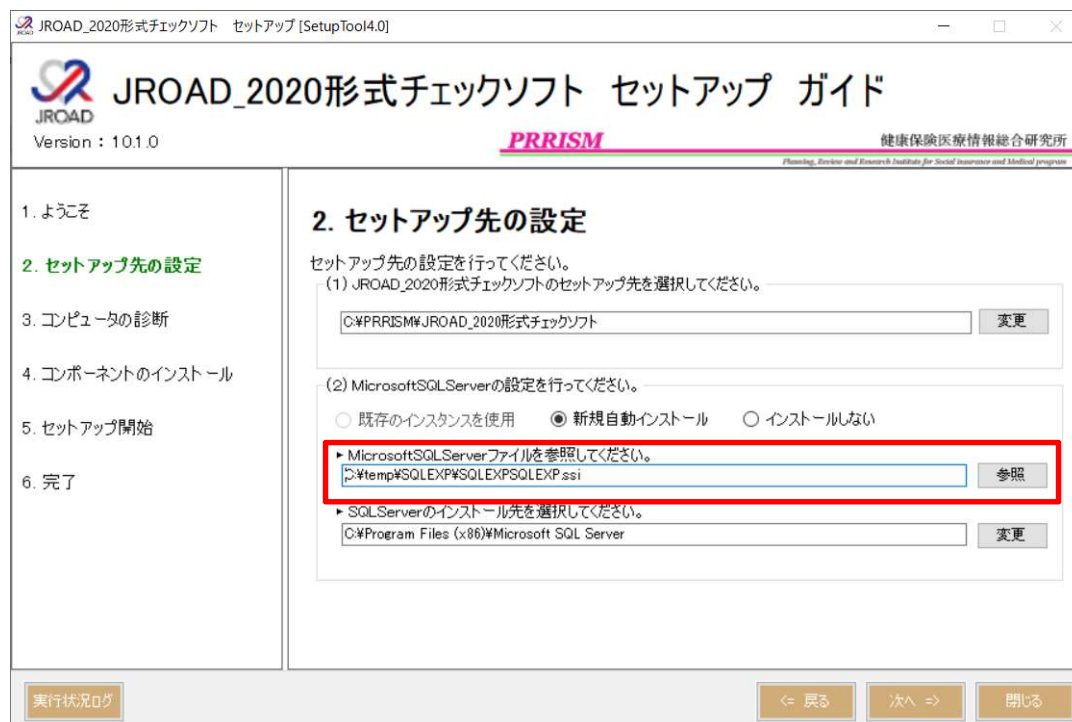
※yyyy には提出データの年度が入ります。

※ネットワーク上や外付けメディアにある状態で実行しないでください。

② ダブルクリックで実行し、画面の指示に従ってインストールしてください。

③ SQLServer がインストールされていない端末にインストールする場合

- 形式チェックソフトと同じサイトから「SQLEXP.zip」をダウンロードしてください。
- ローカルディスクの任意の場所に解凍してください。
- 以下の画面のように、「SQLEXP.ssi」を指定してください。
- SQLServer がインストールされます。



3. インストールについてのよくあるご質問

Q. デフォルトで.NET Framework 4.x がインストールされていても 3.5 の有効化が必要なの

か。

A. 必要です。有効化されていない場合は、自動的に表示されるインストールガイドに沿って **NET Framework 3.5** をインストールしてください。

Q. 厚生労働省から配布された「DPC 調査参加病院向け DPC データ提出支援ツール」が入った PC にインストールしても問題ないか。

A. 問題ありません。

III. 操作説明

1. プログラムの起動

「スタート」→「PRRISM_JROAD」→「yyyyCodeCheck_JROAD」を選択しプログラムを起動します。または、インストール時にデスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックしても起動が可能です。

2. 施設コードの登録と利用認証（初回起動時のみ）

① 上図の通り施設コードと認証パスワードを入力してください。

- 施設コードは都道府県コード 2 桁+医療機関コード 7 桁の計 9 桁の数字です。データチェックに使用しますので、お間違いのないようお願い申し上げます。
- 施設コードがご不明の場合は、様式 3 のファイルを開いて「様式 3 - 1」シートの上段に入力されている施設コードをご確認ください。
- 間違えて登録してしまった場合は、登録の解除方法のご案内をいたしますので、事務局（dpc-jroad@ml.ncvc.go.jp）までメールでご連絡ください。

② OK ボタンを押して少しお待ちいただくと登録が完了し、メニュー画面が開きます。

- この作業は初回起動時のみで、2 回目以降の起動時には必要ありません。

3. メニュー画面

① メニュー画面が開きましたら、「形式チェック」を選択してください。

4. データ出力先の指定

- ① 症例絞込データ、提出データ、院内確認用データの出力先をそれぞれ指定します。
 - データ出力先はそれぞれ異なるフォルダパスを指定してください。
 - データ出力先は処理を行っている PC 内で書き込み権限のあるフォルダを設定してください。 ネットワーク上の場所や、外付けメディアドライブ等を指定すると、エラーの原因となります。

2020年度 形式チェックツール Ver.10.1.0

2020年度 形式チェック機能

登録情報
施設コード : 123456789

オプション
設定変更

全ファイルのチェック・提出用ファイルとログの生成

症例絞込データ出力先 参照

提出データ出力先 参照

院内確認データ出力先 参照

3つのフォルダパスを入力する

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ファイル単体チェック
月度	様式1	様式4	EF	D	H	様式3	症例数	単体結果	相関結果	単体チェック	相関チェック	結果参照	
4月										実行	実行	参照	
5月										実行	実行	参照	
6月										実行	実行	参照	
7月										実行	実行	参照	
8月										実行	実行	参照	
9月										実行	実行	参照	
10月										実行	実行	参照	
11月										実行	実行	参照	
12月										実行	実行	参照	
1月										実行	実行	参照	
2月										実行	実行	参照	
3月										実行	実行	参照	

入力連のクリア

症例絞込ファイル作成 提出ファイル作成 結果確認

閉じる

5. 各様式ファイルのセット

- ① 各月のタブを選択し、月ごとに形式チェックを行うファイルをセットします。
- ② セットするファイルは厚生労働省の DPC 調査に提出したデータの最終版です。
- ③ 外来 EF ファイルは全月分のファイルをセットしてください。
 - 全月分のファイルが用意できない場合は、全ての月の外来 EF ファイル欄を空欄にしてください。
 - 一部の月のみ外来 EF ファイルをセットするとエラーとなります。
- ④ D ファイルがない場合 (DPC 準備病院、出来高算定病院等) は、D ファイルの欄に「dummy」と入力してください。
- ⑤ H ファイルがない場合は、H ファイルの欄に「dummy」と入力してください。

2020年度 形式チェックツール Ver.10.1.0

2020年度 形式チェック機能

登録情報
施設コード : 123456789

オプション
設定変更

全ファイルのチェック・提出用ファイルとログの生成
症例対応データ出力先
C:\temp\2020\01_症例対応データ 参照

提出データ出力先
C:\temp\2020\02_提出データ 参照

院内確認データ出力先
C:\temp\2020\03_院内確認データ 参照

各様式ファイルの出力先/入力の保存

4月~3月のタブを選択

様式1
C:\temp\2020\2020-04\FF1_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:09

様式4
C:\temp\2020\2020-04\FF4_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:10

入院 E Fファイル
C:\temp\2020\2020-04\EFn_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:09

外来 E Fファイル
C:\temp\2020\2020-04\EFg_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:09

Dファイル
C:\temp\2020\2020-04\Dn_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:09

Hファイル
C:\temp\2020\2020-04\Hn_04_1.txt 参照 2021/09/13 13:31:10

様式3
C:\temp\2020\2020-04\ff3_2020_04.xlsx 参照 2021/09/13 13:32:37

選択した月の各様式のファイルをセットする

閉じる

例) 外来 EF、D ファイル、H ファイルのご用意がない場合の入力方法

様式1
C:\temp\2020\2020-04\FF1_04_1.txt 参照

様式4
C:\temp\2020\2020-04\FF4_04_1.txt 参照

入院 E Fファイル
C:\temp\2020\2020-04\EFn_04_1.txt 参照

外来 E Fファイル
参照

Dファイル
dummy 参照

Hファイル
dummy 参照

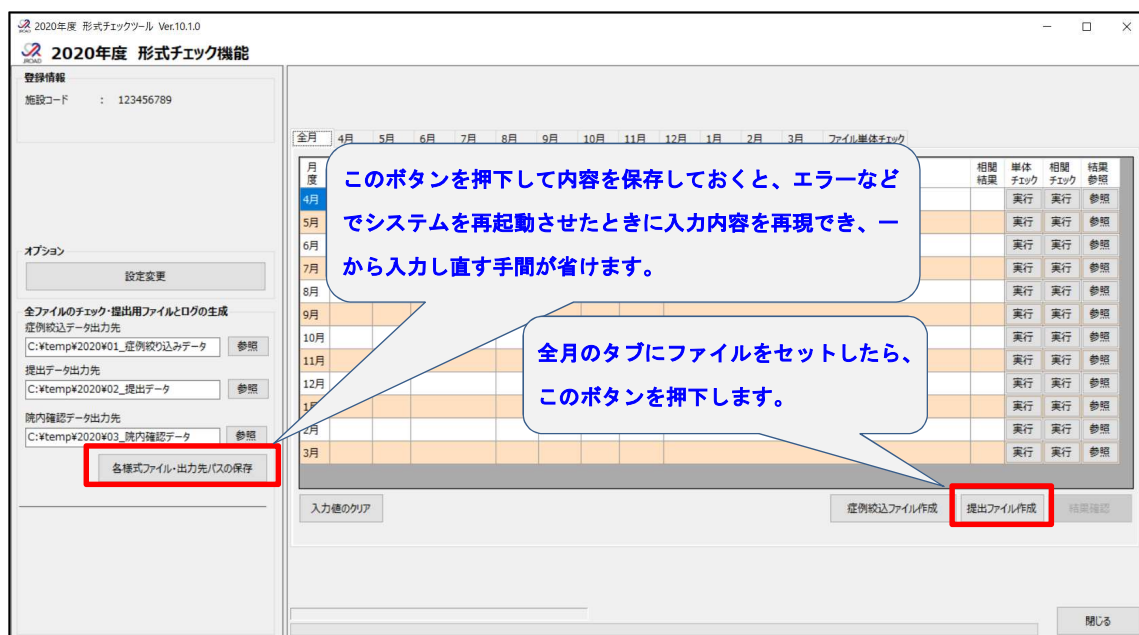
様式3
C:\temp\2020\2020-04\ff3_2020_04.xlsx 参照

外来 EF...空欄とする

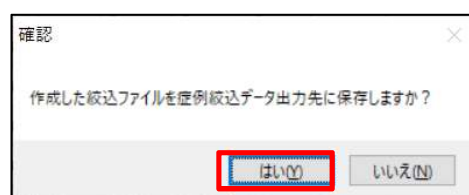
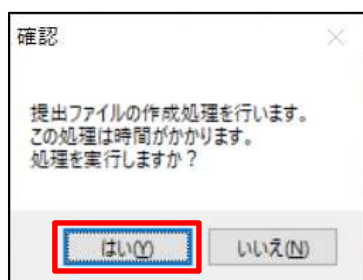
Dファイル、Hファイル...
「dummy」と入力する

6. 提出用ファイル作成処理の実行

- ① 全ての月のタブでファイルのセットが完了したら、「各様式ファイル・出力先パスの保存」ボタンを押下して内容を保存します。
 - エラーなどでシステムを再起動させた時に最初から入力しなおす手間が省けます。
- ② 全月タブを選択し、「提出ファイル作成」ボタンを押下します。
 - 十分な作業時間（数十分～数時間）を確保した上で行ってください。処理時間はインストール先の PC の性能や、抽出対象症例数、その他の環境により異なります。



- ③ 処理を開始すると下の確認画面が表示されますので、それぞれ「はい (Y)」ボタンを押して処理を続行してください。



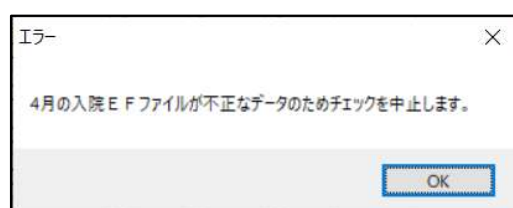
7. データ作成時のエラーについて

代表的なエラーメッセージとその対応方法です。エラーメッセージが表示され、提出ファイルが作成されなかった場合は、以下を確認の上、元ファイルの修正を行ってください。ファイルの修正後、再度提出ファイル作成の処理を行ってください。

① ○月のXXファイルが不正なデータのためチェックを中止します。

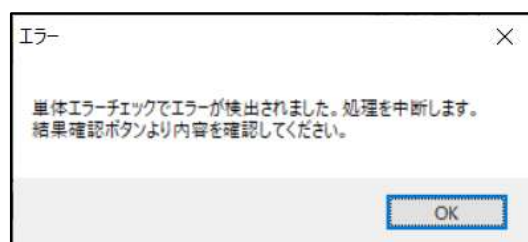
対象ファイルの以下の点を確認し、正しいファイルに修正してください。

- 施設コードが間違っていないか
- 様式が間違っていないか
- データ中の余計なタブ等で、正規ファイルと異なる列数となっていないか



② 単体エラーチェックでエラーが検出されました。

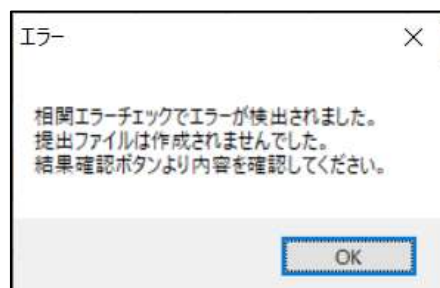
ファイル内に許可されていない値があります。「全月」タブの「単体結果」欄で、どのファイルにエラー（×印）があるか確認の上、結果参照の「参照」ボタンからエラーの内容を確認し、元ファイルのエラーを修正してください。



月 度	様式1	様式4	EF	D	H	様式3	症例数	単体結果	相関 結果	単体 チェック	相関 チェック	結果 参照
4月	○:25	○:1	○:99 外:5	○:8	○:12	○	1	全:×FF1:○FF4:○EF:×1 外:○D:○H:○FF3:○		実行	実行	参照

③ 相関エラーチェックでエラーが検出されました。

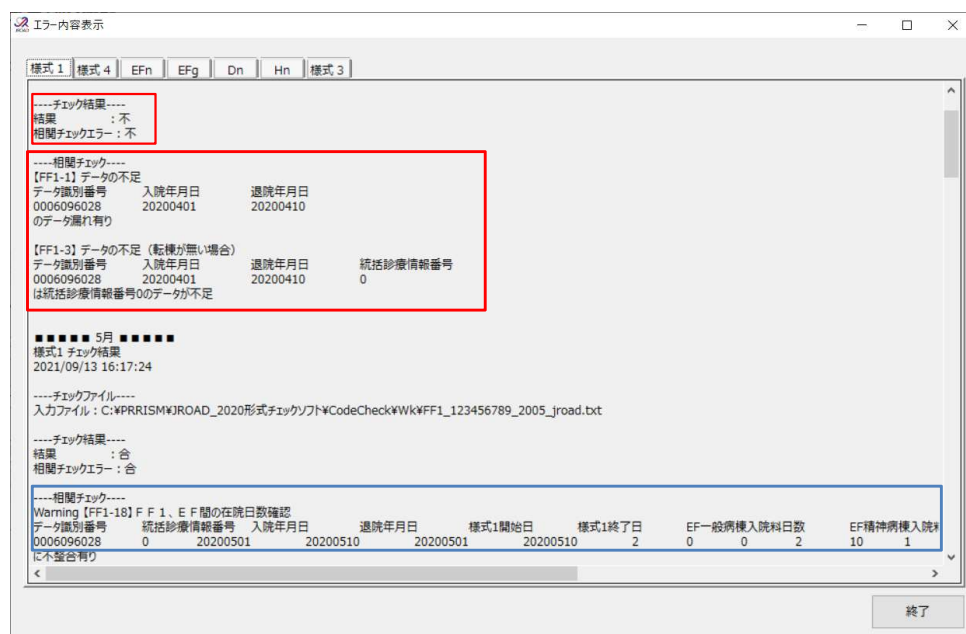
ファイル間でデータの矛盾があります。結果参照の「参照」ボタンからエラーの内容を確認し、元ファイルのエラーを修正してください。



月 度	様式1	様式4	EF	D	H	様式3	症例数	単体結果	相関 結果	単体 チェック	相関 チェック	結果 参照
4月	○:0	○:1	○:99 外:5	○:8	○:12	○	0	全:○FF1:○FF4:○EF:○外:○D:○H:○FF3:○	×	実行	実行	参照

関連チェックのエラー結果は様式ごとにタブに分かれて表示されます。各様式の「チェック結果----」の部分を確認の上、「結果：不」となっている場合は、その下に表示される結果を確認して元ファイルを修正してください。（下記はエラー内容の一例です。）

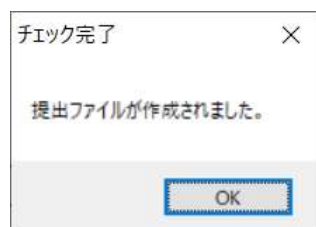
※頭に **Warning** と表示されている項目のみの場合は、ファイルを修正しなくても提出用ファイルを作成できます。



- ④ 上記以外のエラーが画面上に表示されていて、提出用ファイルの作成が正常に完了しない場合は、エラー内容の確認できる画面キャプチャ（エラーメッセージ、エラーコード、対象ファイル等）をメールに添付の上、事務局へお問い合わせください。

8. 処理の完了

- ① 下の画面が表示されれば提出用データの作成は完了です。



IV. ソフトウェア画面説明

1. メニュー画面



No.	名称	説明
1	バージョン情報	ソフトウェアのバージョンを表示します。
2	登録情報	初回起動時に登録した施設コードを表示します。
3	形式チェックボタン	「ファイルの単体事前チェック」画面を開きます。

2. 形式チェック機能（全月タブ）

2020年度 形式チェックツール Ver10.1.0

2020年度 形式チェック機能

登録情報
施設コード : 123456789

オプション
設定変更

全ファイルのチェック・提出用ファイルとログの生成
 症例検込データ出力先
 C:\temp\W2020\W01_症例検込済みデータ 参照
 提出データ出力先
 C:\temp\W2020\W02_提出データ 参照
 院内確認データ出力先
 C:\temp\W2020\W03_院内確認データ 参照
 各様式ファイル・出力先パスの保存

全月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 ファイル単体チェック

月	様式1	様式4	EF	D	H	様式3	症例数	単体結果	相関 結果	単体 チェック	相関 チェック	結果 参照
4月										実行	実行	参照
5月										実行	実行	参照
6月										実行	実行	参照
7月										実行	実行	参照
8月										実行	実行	参照
9月										実行	実行	参照
10月										実行	実行	参照
11月										実行	実行	参照
12月										実行	実行	参照
1月										実行	実行	参照
2月										実行	実行	参照
3月										実行	実行	参照

入力總のグラフ

症例検込ファイル作成 提出ファイル作成 結果確認

15 16 17 19

18

閉じる

No	名称	説明
1	機能名称	この形式チェックで処理を行う年度を表示します。
2	登録情報	初回起動時に登録した施設コードを表示します。
3	設定変更ボタン	ソフト起動作業用フォルダを選択する画面を開きます。 (※原則使用しません)
4	出力ファイルパス	「症例絞込データ」「提出データ」「院内確認データ」の出力先のフォルダパスを指定します。それぞれ異なるパスを指定する必要があります。参照ボタンを押下すると、フォルダ選択用のダイアログボックスが開きます。
5	各様式ファイル・出力先パスの保存	現在の入力内容を保存し、次回起動時に現在の入力内容が反映されるようにします。
6	月選択タブ	処理状況を確認する全月タブ、またはファイル選択を行う各月タブの切り替えを行います。
7	ファイル単体チェックタブ	ファイル単体チェック画面を表示します。
8	ファイル確認エリア	各月のファイルの存在状況、件数などが表示されます。
9	単体結果表示エリア	各月の単体エラーチェックの結果がファイルごとに○または×で表示されます。
10	関連結果表示エリア	各月の関連エラーチェックの結果が○または×で表示されます。
11	単体チェック実行ボタン	月別に症例絞込ファイルについて単体チェックを実行します。
12	関連チェック実行ボタン	月別に症例絞込ファイルについて関連チェックを実行します。
13	結果参照ボタン	月別に症例絞込ファイルについてチェックの結果を表示します。
14	入力値のクリアボタン	各様式ファイルの設定をすべてクリアします。
15	症例絞込ファイル作成ボタン	セットされたデータに対して症例絞込ファイルの作成を行い、3で指定した出力先に症例絞込ファイルを出力します。
16	提出ファイル作成ボタン	提出ファイル作成処理を実行します。絞込ファイルの作成→単体チェック→関連チェックを行い、合格時に提出ファイルを作成します
17	結果確認ボタン	提出ファイル作成処理時に検出されたエラー状況を確認できます。
18	プログレスバー	現在の処理の進捗状況をメッセージとプログレスバーに表示します。
19	閉じるボタン	メニュー画面に戻ります。

3. 形式チェック機能（各月タブ）

No	名称	説明
1	元データのファイルパス	各様式の元データのファイルパスを指定します。 パスを直接入力するか、参照ボタンからファイルを指定する他、 ファイルをドラッグアンドドロップすることでも入力可能です。
2	ファイル更新日時	指定したファイルの更新日時が表示されます。

以上